

※ 緑文字は職員へのアンケートを実施して成果を検証するものです。同様に、青文字は児童生徒へのアンケートで、赤文字は保護者へのアンケートで成果を検証します。

平成29年度 西都市立三納小中学校自己評価書

【評価基準】 4～期待以上 3～ほぼ期待どおり 2～やや期待を下回る 1～不十分

領域	評価項目	区分	評価指標または数値目標	結果	学校の自己評価と改善策	自己評価		学校評価委員のコメント	評価
						指標別	総合		
II	① 基本とする生活指導の徹底	共	<p>a あいさつは、「いつでも・どこでも・誰にでも・心を込めて」を意識させ、あいさつができる児童生徒を90%以上にする。</p> <p>b 児童会や生徒会による自主的なあいさつ運動を推進する。</p> <p>c 家庭で、「おはよう」「おやすみなさい」などのあいさつを励行する。</p> <p>d 名前を呼ばれたり、同意を求められたりした際の返事は「はいっ」と相手に伝わるようにしっかりさせる。</p> <p>e 整理整頓に努めさせる。</p> <p>f 清掃班長を中心に主体的な清掃態度を育成する。</p>	<p>a 児童生徒の自己評価は高いが、職員の評価は低い。あいさつはしているが、元気のよいあいさつがなかなかできていない。小学生からの中学部職員へのあいさつがなかなかできていない。</p> <p>b 小中別々の活動だった。中学生はあいさつ運動はしていないがボランティア活動を行っている。</p> <p>c 90%以上の家庭で実践できている。</p> <p>d 職員の評価として65%ぐらいしかできていない。</p> <p>e 一部の児童生徒がなかなかできていない。</p> <p>f おおむねよい。</p>	<p>a 小学生に対しては、中学部職員からあいさつをする。</p> <p>b 今後も継続してこの形を行っていききたい。</p> <p>d やり直しをさせるなど、できるまで繰り返し行わせる。</p> <p>e その都度指導をしていく。</p> <p>f 継続して取り組む。</p>	2.7	2.7	<p>来校した際、いつも気持ちのよいあいさつをしてきている。登下校時や地域で会った際も、低学年児童が敬語で話しかけてくる等、実態はよい。ただ、あいさつについての自己評価が児童生徒は非常に高いものの、職員は65%と高いとは言えない状況にある。よく知っている人には進んであいさつできているが、あまり顔を知らない人に対しては十分にはできていないと感じる。あいさつは自分の方から自然に出るものであって強制されるものではないと考える。三納で出会った人には誰に対しても（顔を知らなくても知らなくても）進んであいさつができる子どもを育ててほしい。</p>	4
			<p>a 人権学習をテーマとした授業を実践する。</p> <p>b 生徒指導の三機能を活かした授業を実践し、児童生徒の自己肯定感を高める。</p> <p>c いじめや悩みのアンケート及び教育相談を実施し、全職員で共通理解し、対応する。</p> <p>d 日常生活における道徳教育を充実させる。</p> <p>e 信頼関係を基盤とした学級経営を充実させる。</p> <p>f 他者を思いやる心のこもった言葉遣いをさせる。</p> <p>g 学級園の草花を育てることを通して、優しさや思いやり、命あるものを大切にする心を育てる。</p> <p>h 保護者や地域への特別支援教育の啓発を図る。</p>	<p>a 実施することができた。</p> <p>b 児童生徒とも90%以上で目標達成をしている。自己肯定感が高いと考えられる。</p> <p>c ほぼ毎月アンケートを実施し、全教職員で共通理解ができた。</p> <p>d e 君・さんを付けて呼ぶことの指導を継続して行った。</p> <p>f 70%以上できていると児童生徒は自己評価をしているが、教職員のアンケート結果はあまりできていないとなっている。</p> <p>g 協力して草抜きや苗植えに取り組んだ。</p> <p>h 特別支援教育便り「なかま」を保護者に配付し保護者や地域への特別支援教育の啓発を図った。また、特別支援教育担任は、学級通信等で特別支援学級在籍児童の学校・学級生活の様子や成長の状況等の情報を特別支援学級在籍児童の保護者に発信してきた。</p>	<p>a 継続して今後も取り組む。</p> <p>b f 小学部は、毎月の教育相談アンケート→教育相談→ss委員会を実施した。今後も継続してこの流れで取り組みたい。小中学部ともQUの実施をし、教育相談に活用した。</p> <p>c 教育相談の結果をもとに、常時指導に生かす。</p> <p>d f 君・さんを付ける指導を継続することで、他者を思いやる気持ちを育てていきたい。</p> <p>e 学級担任だけで問題を抱え込まずに、全職員で協力して問題解決にあたる。</p> <p>h 三学期に実施される新入児保護者説明会などの機会を生かして、保護者や地域への特別教育の啓発を一層図りたい。</p>	2.95	2.95	<p>学校生活においては、嫌なあだ名や呼び捨てで呼ぶ児童はいない。いじめについては地域で起きているという情報はないが、学校では「いじめアンケート」をもとに、些細な問題でも「いじめ」と認知し、解決に向けて指導に力を入れていることはすばらしい。言葉づかいについては、学校時と少年団活動時とは違ってくると思う。公私で使い分けができる力を身に付けてほしい。また、親がよくない言葉をつかっているならば、子どもも必然的に言葉づかいがわるくなるので、実態を保護者に伝え、学校と家庭と連携して指導をしてほしい。</p>	4
			<p>a 学校のきまりや校則、社会的ルールやマナー、交通ルール等を守る指導をする。</p> <p>b 生活指導週間における廊下歩行に関する指導を徹底し、「廊下歩行のきまりを守っている」児童を90%以上にする。</p> <p>c 自転車通学に関するルールを遵守させる。</p>	<p>a ルールやマナーは良く守れている。</p> <p>b 2学期の生活指導週間は、今年度は児童目標に則した指導内容で行ったため、廊下歩行については指導が徹底できなかった。児童の自己評価は80%を超えているが、できているとは言えない。</p> <p>c よく守れている。</p>	<p>a 小中の枠を超えて、気づいたときに指導をしていく。</p> <p>b ラインテープを教室の出入り口と廊下の曲がり角に付けているが、まだ意識付けができていないところがある。今後も継続して指導を行っていききたい。同時にテープの貼り替えや補強を行っていききたい。</p> <p>c 小学部6年の2月末頃と中学部2、3年の4月に自転車の実技試験と筆記試験を実施する。</p>	2.95	3.00	<p>小学部児童の登下校や中学部生徒の自転車通学はしっかりマナーが守れていると感じている。たまたま、交差点での十分な安全確認ができていない生徒がいるが、注意すると素直に聞いてくれる。今後も交通安全に対する指導を充実させてほしい。</p>	4